琉球大学学術リポジトリ

沖縄諸島におけるオリイオオコウモリの分布

メタデータ	言語:
	出版者: 琉球大学21世紀プログラム
	公開日: 2007-07-10
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者: 中本, 敦, 松村, 俊一, 金城, 和三, 伊澤, 雅子, Nakamoto, Atsushi, Matsumura, Shun'ichi, Izawa, Masako
	メールアドレス:
	所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/852

PE-24　　沖縄諸島におけるオリイオオコウモリの分布

中本　敦[1)]・松村俊一[1)]・金城和三[2)]・伊澤雅子[1)]

[1)] 琉球大学理学部　[2)] 沖縄国際大学法学部

オリイオオコウモリ *Pteropus dasymallus inopinatus* は南西諸島に広く分布するクビワオオコウモリの 1 亜種で、沖縄島に固有であるとされていた（Yoshiyuki 1989）。しかし、その後のいくつかの島での目撃例（太田 1992、大沢・大沢 1995 など）や演者らの予備的な調査によって、沖縄島周辺の多くの島にも生息することがわかってきた。さらに、オオコウモリ類では島嶼間を季節的に移動する例も知られている。そこで本研究では、オリイオオコウモリ個体群の全体把握と島嶼間の有機的関連を調べるために、まず、沖縄諸島におけるオリイオオコウモリの季節移動を含めた詳細な分布を明らかにすることを目的とした。

2005 年 8 月から 12 月に、沖縄諸島（奄美諸島の一部を含む）の計 26 島において、車または徒歩によって島内を踏査し、オオコウモリの姿・食痕を記録した。同時にこれまでにクビワオオコウモリの餌植物として知られている 108 種の植物についての餌量を評価した。また、住民からオオコウモリの目撃・生息状況に関する情報を収集した。

調査を行った 26 島の内、19 島でオオコウモリの姿または食痕を発見した。オリイオオコウモリの主要な生息地である沖縄島の生息密度（12.5 頭/km^2：未発表データ）との比較から、津堅島（31.9 頭/km^2）と伊計島（21.4 頭/km^2）の生息密度は高く、瀬底島が同程度（11.7 頭/km^2）、残りの 16 島の生息密度は低い（<8.0 頭/km^2）ことがわかった。しかし、複数回の調査から、周辺島嶼域の個体数は季節的に大きく変動していることが予想され、沖縄島の周辺島嶼域で目撃された個体の多くは、沖縄島から季節的に移動している個体であると考えられた。オオコウモリの生息の有無は沖縄島からの距離によって決まっていた。さらに距離の増加にともなって個体数が減少する傾向が見られた。特に島間の距離が 5.5km 以上になると個体数は最大でも数個体レベルまで小さくなり、島間距離が 30km 以上になるとオオコウモリは海を越えて島に到達できないと考えられた。一方、島の面積や餌として利用できる植物の種数や量は生息の有無に影響していなかった。つまり、沖縄島の近くに位置する島ほどオオコウモリの双方向の移動が頻繁に起こっていることが予想され、沖縄島から遠く離れた島では、数個体が偶然に島に到達し、一時的に生息していると考えられた。伊江島をはじめ沖縄島以外のいくつかの島でもオオコウモリが繁殖している可能性は高いが、周辺島嶼域の個体群の動向は主要な生息地である沖縄島からの季節的な個体群の移出入量によって左右されていると考えられた。